



ヘウレーカ!

なるほど、そうか

第53回

ジュニア育成1

— ジュニア育成大事です。ゴルフ団体の使命は? —

喜田任紀



今回からジュニア育成について、何回かに分けて考えてみたいと思います。なぜジュニア育成かというと、イングランドで行われているジュニア育成事業とJGAをはじめとするゴルフ団体の取り組みでは根本的な違いを感じるからです。その感じの内容は、ジュニア育成だけでなく、ゴルフ振興や前号で触れた女性ゴルフアの育成についても、同じ違いを感じるからです。特にジュニア育成では、その違いを強く感じます。

イングランドゴルフは、ゴルフを文化と捉え、生活の中にごうゴルフを広め、生活の一部として浸透させようかと腐心しているように思えます。

今回から紹介するイングランドの取り組みは、日本が抱える課題だけでなく、ゴルフ倶楽部

海外と日本のジュニア育成の違い

少なくとも、ジュニア育成に関しては、仕組みづくりというか、構図が日本とは違って見えます。

各国ともジュニア育成は将来のゴルフ業界をしようて立つ人たちの育成ですから、「どうすれば子どもたちにもっとゴルフを好きになってもらえるのだろうか?」と積極的に取り組まれています。ゴルフに関わる多くの人が抱く共通の問いでもあるわけです。

今回から紹介するイングランドの取り組みは、日本が抱える課題だけでなく、ゴルフ倶楽部

の根幹にかかわる問題解決へのアプローチにもなっています。ヘウレーカ! 分かったと思うのでいただけると嬉しいのですが。どうでしょう。

日本は、ゴルフ人口の減少傾向が続いており、ジュニア層の育成も重要性を増しています。競技に関心が強い子どもはいるものの、競技に触れられる入口が限られているため「やってみたい」と思っても機会が得られない子どもが大多数を占めているのではないのでしょうか。この競技人口の状況は、国民スポーツ大会開催そのものの問題となっていますが、競技人口の将来を考えたとき、極めて大きな課題となっています。

表1 海外（イギリス・アメリカ）と日本のジュニア育成の違い（概要）

項目	海外（England Golf & The Golf Foundation / First Tee）	日本
対象層	初心者から上級者まで全レベル。特に小学生以下の未経験層を広くカバー	すでにゴルフ経験がある、基礎ができている子どもが中心。アスリート志向が強い
目的	生涯スポーツとしての普及と裾野拡大。人格教育やライフスキル育成も重視	競技成績向上とプロ・トップアマ輩出を重視
入口の広さ	学校・地域クラブ・イベント・ボランティアネットワークなど多様	主にゴルフ場やスクールに参加する子どもが対象。入口は狭い
システム化	年齢・経験別のカリキュラムやステージ制で進級。全国統一の認定制度あり	指導内容や評価基準は指導者ごとに異なる。統一されたシステムはほぼなし
関わる組織	ゴルフ協会・教育機関・地域クラブ・非営利団体が連携	ゴルフ連盟や協会は競技会運営が中心。普及段階での学校連携は少ない

表2 アプローチの違い

項目	海外型（英国・米国）	日本型（現状）
入口	学校授業や放課後プログラムで体験。道具は貸出、簡易クラブも活用	家族の影響や練習場通いが中心。未経験層への働きかけは少ない
指導内容	人格形成・ライフスキル育成を重視。「Honesty」「Respect」など価値観を明示	技術・スコア重視。メンタルや人格は指導者の裁量
対象範囲	初心者から障がいのある子どもまで全員参加型	勝つためのジュニア中心。離脱層への再アプローチは少ない
システム	ステージ制、バッジや認定証で可視化	各スクール独自メニュー。共通言語なし

一方で海外を見渡すと、イギリスやアメリカでは学校や地域を拠点に、ゴルフがもつと自然に子どもたちの生活の中に浸透しています。そこには「ゴルフは生涯スポーツであり、人格教

育の場でもある」という明確な思想が流れているからです。JGAなどの競技団体は、同じようなゴルフの有用性を説いていますが、実は内実には大きな違いが見られます。具体的にどの

ような違いがあるのかを、表1に整理してみました。

こうして並べてみると、発想の違いが一目瞭然に分かるとしています。

海外の取り組みを見ると、「誰でも入れる入口を用意し、広くカバーする」ことに力を入れているのに対し、日本は「できる子を競技トップに押し上げる」ことに焦点を絞っているように思えてなりません。強いアスリートへの養成、優勝できる選手の育成はニュースタが高いのですが、ジュニア育成のための一つの手段が、目的化しているように私には感じられます。ジュニア育成の本来の目的は、ゴルフ

アーの底辺拡大にあると思うのですが、どう思われますか。

勘違いしないでほしいのは、この連載記事の目的は、批判ではなくて情報提供です。しつこいとは思いますが、「そうなんだ」と思っただけです。

こうした違いの背景には社会文化の違いがあることも事実です。ジュニア育成を含めゴルフ振興を進める上では、ここを整理しておくことが重要です。

違いの背景にあるもの

背景にある社会性を考えると、個人的には宗教的要素が感じられるのですが、全体の最適化というマーケティングが働いてい

JGA Junior School

JGAジュニアスクール

各地域ゴルフ連盟では、夏休み等にJGAジュニアスクールを開催しています。

JGAジュニアスクールとは、各都道府県ゴルフ連盟が主催する、一般社会人ゴルフ選手とジュニア選手が交流する機会です。

本大会はゴルフ連盟では、各都道府県ゴルフ連盟が主催する、一般社会人ゴルフ選手とジュニア選手が交流する機会です。

JGAジュニアスクールとは、各都道府県ゴルフ連盟が主催する、一般社会人ゴルフ選手とジュニア選手が交流する機会です。

本大会はゴルフ連盟では、各都道府県ゴルフ連盟が主催する、一般社会人ゴルフ選手とジュニア選手が交流する機会です。

開催地	開催日	開催時間	申込
北海道ゴルフ連盟	7月24日(水) 札幌市中央体育館	10:00～12:00	011-227-4555
東北ゴルフ連盟	7月24日(水) 仙台市太白区総合体育館	10:00～12:00	022-222-0507
関東ゴルフ連盟	7月24日(水) 東京都江東区有明	10:00～12:00	03-6273-0000
中部ゴルフ連盟	7月24日(水) 名古屋市中区栄	10:00～12:00	052-233-2302
関西ゴルフ連盟	7月24日(水) 大阪市東淀川区東中島	10:00～12:00	06-6544-0000
中国ゴルフ連盟	7月24日(水) 広島市中区基町	10:00～12:00	082-242-2110
四国ゴルフ連盟	7月24日(水) 高松市東山	10:00～12:00	087-822-0000
九州ゴルフ連盟	7月24日(水) 福岡市東区東区	10:00～12:00	092-434-0000

KGAジュニア・ゴルフスクール

参加にはJGAジュニア会員登録が必要です。
 詳細や申込については、[JGAホームページ](#)をご覧ください。

[JGAホームページ](#)

2025年 KGAジュニア・ゴルフスクール

開催日	開催倶楽部	対象者		定員	申込状況	申込者一覧
3/28(金)	袖ヶ浦カンツリークラブ 袖ヶ浦コース	中級者, 上級者	中学生,高校 生	90	-	申込一覧
3/28(金)	袖ヶ浦カンツリークラブ・袖ヶ浦コース	初級者	小学生,中学 生,高校生	20	-	申込一覧
3/31(月)	鷹之台カンツリー倶楽部	中級者, 上級者	中学生,高校 生	80	-	申込一覧
3/31(月)	鷹之台カンツリー倶楽部	初級者	小学生,中学 生,高校生	20	-	申込一覧
3/31(月)	相模カンツリー倶楽部	中級者, 上級者	小学生	60	-	申込一覧
申込開始日	1月30日(木) 12:00		申込締切日	2月25日(火) 17:00		実施規定
						

るようにも思えます。

■文化的背景も大きい。

・英米・スポーツ教育・地域活動の一部。クラブ活動や学校教育に自然に組み込まれる

・日本・スポーツ部活動の発想から抜け出られていない。

■環境面も違う。

・英米・パブリックコースやショートコースがたくさんある。安価でアクセスしやすい

・日本・18ホールのラウンドが

または専門スクールや競技が優先

中心で費用もジュニアには高額。練習場も有料。気軽さ、手軽さに欠ける
さらに組織の役割にも差がある。

- ・英米…ゴルフ協会が普及から育成、教育まで包括的に統括
- ・日本…協会は競技運営が中心で、普及は民間に依存

まとめると

- ・海外型…入口を広げ、誰もが参加できる「旅路 (Journey、ゴルフの未来)」を用意する
- ・日本型…競技に集中し、選抜された子どもを強化する

この差が、裾野の広がりや将来の競技人口確保に大きく影響しているのは言うまでもないと思うのです。

イングランドゴルフの「Junior Journey」

こうした違いの中で、特に注目したいのがイングランドの取り組みです。

England Golf (イングランドゴルフ協会) と The Golf Foundation (ゴルフ財団) が連携して

展開する「Junior Journey (ジュニア・ジャーニー)」は、まさに海外型の理念を体現した全国展開されているプログラムです。

5つのステージで描く「ゴルフの未来」

Junior Journeyは、子どもたちの成長を「旅」に見立て、5つのステージで組み立てられています。

1. 学校・地域コミュニティでの紹介 (Introduction to Schools & Communities)
 2. ゴルフクラブで導入 (Club Introduction)
 3. スキル・ゲーム開発 (Skill Game Development)
 4. ゴルフコース体験の促進 (Golf Course Development)
 5. クラブ会員としての継続 (Golf Club Membership & Love of the Game)
- この流れは、初心者が自然にステップアップしていくための明確な道筋を示しています。
- 取り組みを支える仕組み
- ・ Unleash Your Drive

学校と地域団体をゴルフクラブにつなぐ仕掛け。最初の一步を踏み出しやすくする

・ GolfSixes

6ホールの短縮ゲームで、子どもたちに競技の楽しさとチーム感を提供

・ Junior Hubs

ジュニア育成に力を入れるゴルフクラブを「ハブ」として認定し、学校連携や広報を支援。クラブ同士のネットワークも形成される

データで見るエビデンス

- ・ジュニアの47%が「ゴルフは好きなスポーツ」と回答。理由は「家族と楽しめる」「仲間との交流」「成長を感じられる」
- ・ゴルフクラブの80%が「全国共通の育成パスが必要」と答えており、Junior Journeyがそのニーズに込んでいる
- ・ジュニアの84%は「明確なステージがあるクラブに所属するとより楽しめる」と感じている

ここまで、海外と日本の比較、そしてイングランドの「Junior Journey」の全体像を紹介しました。

次号以降では、「Junior Journey」各ステージの具体的なカリキュラム、学校教育との連携の実際、そして日本の現状にどう応用できるのか——といった点を、さらに詳しく掘り下げていきます。

イングランドゴルフの Junior Journey

<https://www.Englandgolf.org/news-detail?newsarticleid=1218>



JGAジュニアスクール

<https://www.jga.or.jp/junior/school/>



次号へ——さらに深く